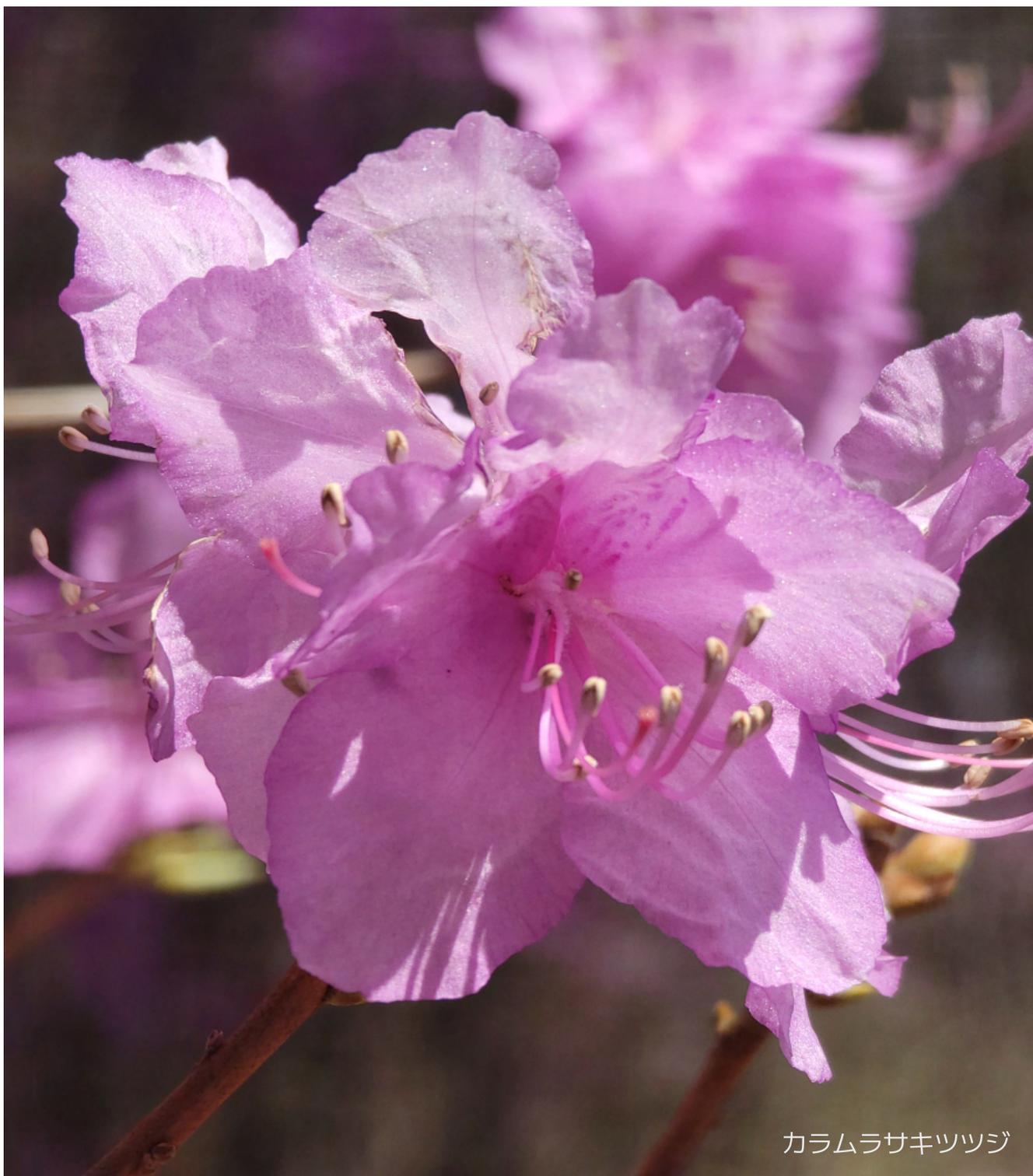


生き生き 韓国文化

2026年3月
vol. 41

朝鮮時代の花見



カラムラサキツツジ

こんにちは！韓国国際交流員のチェ・スヨンです。
年明けがまだ一昨日のようですが、もう春が訪れました。
皆さん、花見の予定は立てましたか？
今回は朝鮮王朝時代の花見を紹介します！

歳時記



申潤福 < 年少踏青 > © 潤松美術館
若者たちが花見に行く様子

昔、朝鮮半島では上巳（旧暦3月3日）になると花見をし、青草を踏みながら春を満喫しました。

18世紀後半から19世紀前半には、歳時風俗について多数の歳時記が書かれて、花見が民間風俗の一つだったことが分かります。

時代や地域、遊び方によって様々な名称がありますが、自然を歩き体験したことは共通します。また、別に時間を割いて、一つのレジャーとして花見を楽しんだと考えられます。

ちなみに韓国語で花見は「꽃놀이（花遊び）」、「花を見ながら遊ぶ」という意味です。

春の花

今の韓国人にとって春を告げる花と言えば、モクレンとレンギョウ、ツツジを思い出します。しかし、朝鮮時代には杏花と桃花が春を代表する花でした。

朝鮮の首都、漢陽（昔のソウル）の歳時記によると、仁王山の弼雲臺に咲く杏花と北屯（現在のソウル城北洞）に咲く桃花が漢陽の見所だったようです。

弼雲臺と北屯に集まった風流人が詩や歌、音楽を好んだ記録がたくさん残っています。



鄭散 < 弼雲臺賞春 > © 潤松美術館
弼雲臺で花見をする人々が描かれている

春の節食



花煎 ©伝統文化ポータル



花麵 ©韓国伝統飲食研究所

節分に恵方巻を食べるように、朝鮮半島では上巳に花煎と花麵を食べました。花煎はもち米粉を捏ね、片面に花を付けて油に焼いた餅です。仕上げに蜂蜜を塗って甘く、花で飾って見た目も綺麗です。花煎の花は季節によって違いますが、上巳に食べる花煎にはツツジが使われました。

花麵は片栗粉の生地をゆでて千切りし、冷やした五味子汁に入れて蜂蜜を混ぜ松の実を浮かべた料理です。片栗粉の麵の代わりに、片栗粉を塗してゆでたツツジを使ったものもあります。

余談ですが、韓国ではツツジを食べれる「진달래 (カラムラサキツツジ)」と食べられない「철쭉 (クロフネツツジ)」で区別し、料理には진달래を使います。

ファジョン

花煎ノリ (花煎遊び)

ツツジが咲く3月になると、既婚女性たちは近くの勝地で、花煎を食べながら歌舞と遊びを楽しむ「花煎ノリ」をしました。花煎ノリは男性中心の社会構造の中で、女性が自由を満喫できるわずかな機会でした。

花煎ノリでは歌会も行われ、女性文学の場でもありました。花煎ノリで書いた歌や、花煎ノリを素材にした歌を「花煎歌」と言います。花煎歌には花煎ノリを準備することから、遊びの楽しみ、家柄の自慢や嫁入り暮らしの辛さ、帰宅した後の感想まで詳しく描かれています。

「実家に帰る道が一番で、花煎ノリに行く道が次である」という句から、夫の実家で義父母と暮らしながら、家事をし義父母に仕えて苦労した当時の女性たちの気持ちを覗くことができます。



2018 嶺南内房歌辭 花煎ノリ ©慶北日報